

2026年度 外国人留学生入試 出題の意図	
科目	出題の意図
日本語	問題Ⅰは、書き言葉の日本語で書かれた実際の文章を読んで問いに答える問題である。読解問題として、文章の流れや内容が理解できているかの問い、また理解した内容を日本語で決められた字数にまとめて書けているか等を見る。また、漢字の読み書き、文脈に合った語彙の選択等の問題も含まれる。問題Ⅱは、日本語の文法、語彙に関する問い、及び単作文を書く問いがあり、正しい表現を使って正しい日本語表記で書くことができるか見る。
英語	Ⅰ〔読解〕英語で書かれた一般的なテーマの文章を読み、文脈に合った単語の意味を選択でき、著者の発言を適切に判断できるかを問う。 Ⅱ〔文法〕英語の基本的な構文や表現を理解しているかを問う。 Ⅲ〔整序作文〕日本語と英語で語順や構文が異なる表現を理解し、ほぼ同等の情報を指定された語彙群で伝えられるかを問う。 Ⅳ〔記述作文〕テーマに関する自分の考えをまとめ、それを適切な表現で、英語で論理的な構成で、指定の長さにあわせて表現できるかを問う。
数学 (経済学部・ 現代社会学部・ 農学部 食農ビジネス学科)	出題の意図としては、経済学部1～2年次で学ぶミクロ経済学、マクロ経済学や統計学などの履修に必要とされる、中学～高校レベルの数学基礎力を確認することを目的としている。特に、基礎的な微分・積分、方程式の解法、確率、N進法など、データサイエンスや情報処理にも対応した内容を取り入れ、現代的な経済学教育に対応できる力を測る初級～中級レベルの問題を中心に構成している。
数学 (理工学部 ※生命科学科以外)	大問Ⅰは因数分解の基本的な問題である。 大問Ⅱでは「少なくとも」という表現から余事象を適切に扱えるかを確認した。 大問Ⅲでは2倍角の公式などの三角関数の公式を使いこなせるかを確認した。 大問Ⅳ・Ⅴは数列の基本事項や底の変換公式の理解度を測る内容である。 大問Ⅵは数学Ⅱまでの微分法・積分法の習熟度を図る問題である。 以上より、入学後の専門科目に必要な基礎的知識の定着を確認するための題材を厳選した。
生物	ヒトのからだの調節、生物の特徴と代謝、遺伝情報の発現に関する基本的な原理・法則性の理解と、リード文、図等から解を導く思考力を問う目的で出題した。